

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- 通常総会と奥田知志氏講演会・・・1P
- 南知多町 地区円卓会議・・・・・・・3P
- うめぷろ始動・・・・・・・・・・・・・・2P
- 日本福祉大学サビスラーニング・・・・3P
- 知多市の生活支援コーディネーター及
び協議体の取り組み・・・・・・・・・・2P
- サポートちた 今後の事業予定・・・・3P
- リレーインタビュー・・・・・・・・・・・・3P
- 豊田市 協議体運営能力向上研修・2P
- インフォメーション・・・・・・・・・・・・4P

通常総会と奥田知志氏講演会

5月26日、日本福祉大学美浜校において、本法人通常総会を開催。27年度事業報告と決算について承認、28年度の活動計画案予算案が報告されました。今年度は「0～100歳の地域包括ケアのまちづくり」推進計画の第2期として、介護保険改正に伴う市町毎の新体制整備事業が始まる中、各NPOがおのおのの役割を発揮できるよう地域づくり支援を行ってまいります。



総会後の会員交流講演会「たすけてと言える社会へー0～100歳の地域包括ケアのまちづくりへー」(写真)

には120人が参加し、認定NPO法人抱樸奥田知志理事長から「出会った人への責任」という理念に始まる多くの実践についてお聞きしました。

昨年施行された生活困窮者自立支援法による子どもの学習支援等の予防的事業が、「0～100歳の地域包括ケアのまちづくり」にかなうものとして、再認識できたこと。また、「地域づくりの主体」を勇気づける「伴走支援」という方法の有効性、東北支援で培ったネットワークを熊本に生かし、新たな連携網を構築したことなど、直接支援と中間支援の両方の機能を発揮された経験を贅沢に学ぶことができました。参加した出口副代表理事の寄稿を掲載いたします。(岡本一美)

【自分に問う、偏った支援への覚悟の深さ】

すごい人は、自分で「私すごいでしょ」とは言わない。その実践こそが全てを物語る。誇張も必要ない。揺れることはあっても、ぶれたりはない

い。そのくせ、感じやすくナイーブだ。そして何より謙虚だ。私がお会いした奥田知志さんは、思った通りの人だった。

私はたまたま男性というだけで、宿泊先で相部屋のチャンスに恵まれた。正直、嬉しいというよりは縮み上がっていた。私もNPOの代表としてそれなりの覚悟を決めて始めたつもりであったが覚悟の深さが違うことを同じ部屋の空気を吸うことで実感した。

奥田さんのすごいところは、活動の理念にある。その見識の広さと深さは圧巻だ。現代の人間関係の希薄さの説明にダーウィンの進化論まで持ち出される。

私が一番参考になった点は、運動論だ。困っている人たちを前に①まずは動きだす迅速さ②動きながら考える③そして決断をする。その時、言われなくてもやるし、ミッションに合わなければ言われてもやらない。④ネットワークとコーディネーター これができなければ思い、人、物の全てがあるのに何も進まない。⑤行政が守るあまりできないことをNPOでは行う。「一番小さくされた人々に偏った支援を行う」そして、できないことは謝る。

私は、この言葉で救われた気がしたのだが、謝るだけやりきっているのかということが私をまた悩ませている。

(NPO法人ゆめじろう理事長 出口 晋)



奥田知志理事長

サポートちた事務所 夏季休業のお知らせ

8月13日(土)～8月15日(月)

■うめぷろ始動

介護職員潜在有資格者のキャリア復帰支援への取り組み復職プログラム第1弾として6月29日（水）知多市勤労文化会館にて同窓会&交流会を開催、対象者35人、NPO等事業所15団体21人が参加した。

プログラムは2005～2015年の過去10年間に受講した介護職員初任者研修修了生を対象に5月、従事状況調査集計、8月より始まる介護支援フォローアップ講座、NPO・施設現場見学バスツアーを開催する。交流会のこの日は、北海道から



活躍の場の情報提供と復職に向けた研修支援が必要との声が多くあった

4月に来愛されNPO法人だいこんの花で働き始めた高松信友さんのピアノ演奏を皮切りに、アンケート結果を報告、うめぷろ応援事業所団体紹介をした。

「ブランクがあっても素敵に働く人」1人目の高崎幸子さん（NPO法人絆）は、職場の雰囲気の良いことや自分を成長させるやりがいのある仕事であること、昨年退職した夫と夫婦そろっての活躍ぶりを披露した。2人目は、現在休職中の佐竹悠さん。継続のために頑張りすぎないことやブランクを乗り越える安心要素として職場（上司）の人となりポイントとアドバイスした。

今後ますます必要とされる生活支援の担い手の掘り起こしに向けて、本事業で対象者を現場につなげつつ、地域包括ケアの基盤となる人材育成の機運を高めるため、相談窓口の設置、職場環境や仕事を通じて得られた体験談などのインタビュー記事をHPに掲載し、介護現場の魅力を伝えていく。（市野）

■知多市の生活支援コーディネーター及び協議体の取り組み

NPO法人ゆいの会は、生活支援体制整備事業を受託し知多市の生活支援コーディネーター（以後SCと表記）と協議体の運営を担っている。介護保険外の「地域の支え合いの仕組みづくり」「居場所づくり」やニーズに合ったサービスの担い手の発掘等、NPOがこれまで実践してきた生活者の立場の強みを生かしてボトムアップの体制を進める。

まずは居場所、助け合い活動団体と現状の意見

交換をはじめ、地域の取り組みの情報収集をはじめている。さらに市内10コミュニティには総会、懇話会に訪問し顔の見える関係づくりを始めた。後



6月22日、第2回協議体委員会

期には2コミュニティでの市民学習会を計画している。

また、協議体は、4月から「ゆいの会」、行政、社協が協働で委員会の会議内容を話し合い5月から協議体が始動。医療、介護、障害、子育て、生活困窮など地域福祉全般から委員を選出し、年8回の協議体委員会の実施を計画した。初回は日本福祉大学原田正樹教授を講師に迎え、国の方向性である0歳から100歳までの全世代対応型の地域包括ケアシステムの構築について学習した。今後の委員会では、29年度から始まる新総合事業のサービス創りや2層のSC選出も協議のテーマとなる。

10年後の知多市が「一人暮らしになっても安心して暮らせるまち」であるために、SCと協議体が連携して、地域の支え合い体制を構築していく。（五十嵐）

■豊田市 協議体運営能力向上研修



ファシリテーション・グラフィックを活用した模擬会議を行ったのち、全体共有した

豊田市は、生活支援コーディネーターを地域包括支援センター（以下、センター）25か所に配置し、昨年度より9か所の「協議体」運営を始めている。今年度は、全センターを対象にした研修・相談会・意見

交換会を行う事業を本法人が受託した。

研修初日の5月19日は、知多地域の事例を伝え、協議体運営の課題や住民主体の活動を見出す方法について意見交換した。

また、協議体運営に不可欠なファシリテーションの基礎を学ぶ全体研修を、6月9日に開催、井上淳之典さん（寺子屋プロジェクト）を講師に迎え、45人が受講した。このあと、上郷地区でモデル協議体を運営、実践意欲を高める現場見学ツアーも行っていく予定である。（市野）

■南知多町 地区円卓会議

県下第4位の高齢化率34%の南知多町でも、昨年から地域包括支援センターが、小学校区ごとの地域円卓会議を開催、生活支援体制整備につながる住民の学習の場としてまた資源把握、ネットワーク化をめざし行っているが、今年は「山海」「豊丘」の2地区にアドバイザーとして参加している。



山海地区の第1回円卓会議。二重円卓方式で、活発な意見交換ができ、新規アイデアも出た。

包括では、事前にファシリテーションを、半田市社会福祉協議会前山憲一氏に学び、地域アセスメントを丁寧に行い、準備周到に円卓に臨んでいる。

2回を終えた山海では、ボランティア団体「きずなの会」の幅広い活動内容を共有、従来のサロンの他、公園清掃などの後、花見や月見、野外BBQなど「青空サロン」の開催や、そうした機会を周知するための「山海カレンダー」作成等のアイデアが出た。

高齢化率39%の豊丘では、第1回会議に「移動支援」の課題が大きく取り上げられた。(岡本)

■日本福祉大学サービスマーケティング

日本福祉大学では社会福祉学部 2年生を対象に、社会に求められる力を養成するためにNPOと協働したサービスマーケティングを実施している。

3月のNPO現場見学バスツアーを皮切りに、活動前事前学習、活動先との打ち合わせを経て、7月から8月の夏休み期間中、下記の新規受入団体5団体を含む35団体の現場で活動を行う。

【2016年度新規受入団体(5団体)】

マザーグース緑苑、NPO法人とっこ、NPO法人亀崎まちおこしの会、NPO法人ほがらか企画、NPO法人子どもたちの生きる力を伸ばすネットワーク

□■ サポートちた 今後の事業予定 ■□

介護職員初任者研修

平日半田コース 受講料 70,000円

〈日時〉7月25日(金)～10月10日(金)

〈会場〉半田市福祉文化会館(雁宿ホール)

知多市市民活動センター

〈担当〉竹内

ふくし職員1人インタビュー

美浜町社会福協議会 法人運営・地域福祉部門 主査

櫻井 悟さん



平成9年入職。学生時代に地域のまちおこしイベントにボランティアとして4年間参加し、様々な世代の人たちと協働する面白さを知った。社会教育や子育て支援を地域と協働し作り上げていきたい、

との思いで社協職員になった。

地域柄日本福祉大学とのつながりが多く、学生や教職員のパワー、経験、アイデアは大切な社会資源だと思っている。今年2月に開催したDoNabeNet(土鍋ネット)は、「大学が遠い(関わりが薄い)」と感じる地域の人に来てもらうこと、地域の人と学生の顔の見える関係づくりのきっかけとして、効果的だった。今年度は学生がグループを結成し、主体的に企画している。これからも様々なコラボを仕掛け合い、地域とのつながりを増やしていきたい。

小さな町の社協なので、取り組みへの限界に対する葛藤の日々ではあるが、自分たちだけでは解決できない課題に取り組む人に対し、誠実に応援し続けることを大切にしている。日頃から地域に顔を出しつながりを持ち、自分たちを知ってもらうことで、取り組む人と出会い、つなげていく。これらの地道な行動が、地域活性化につながっていくと思う。(位田)

ご協力ありがとうございました

熊本地震の被災地支援のため、サポートちたでは支援金101,657円を熊本地震支援民間ネットワーク『こころをつなぐよか隊ネット』に寄付させていただきました。募金にご協力いただきありがとうございました。

よか隊ネットでは今なお続く車中避難者への炊き出し援助はじめ、既存の市民団体と協働し新しい地域づくりに向けた活動を行っています。引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳しい活動状況、支援金振込先など

◇こころをつなぐよか隊ネット

<http://yokatainet.com/index.html>

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■「第1回中部まちづくりパートナーシップ大賞」 募集開始！

今年度よりNPOを中心とした地域づくりの協働事業を発掘し、表彰する「中部まちづくりパートナーシップ大賞」を開始します。あなたの活動を社会にアピールして、賞金獲得を目指しませんか！詳細はHPをご覧ください。

〈賞金〉グランプリ30万円、準グランプリ20万円、優秀賞10万円(以上各1事業)、奨励賞5万円(2事業)

〈募集期間〉7月1日(金)～8月31日(水)必着

〈申込問合せ〉(N)パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
<http://www.psc.or.jp/> ☎052-762-0401(山崎)

■サマーアタック2016特別企画 「ぼくは写真で世界とつながる」上映会

発達障がい生きるメッセージ満載！自閉症でコミュニケーションに障がいを持つアマチュア写真家が家族と離れ、沖縄撮影旅行へ挑む姿に密着したドキュメンタリー映画。

〈日時〉7月24日(日) 14時～15時20分(開場13時半)

〈会場〉半田市立さくら小学校 体育館

〈料金〉大人 前売り 800円 当日 1,200円
中学生以下 500円(前売り・当日共)

〈販売〉はんだまちづくりひろば(6月20日～、休館日除く)
みんなのcaféともも(6月4日～、営業日のみ)

〈問合せ〉(N)共育ネットはんだ 水野 ☎0569-89-2001

■男性向け「介護ミニセミナー」

介護やこれからの暮らしのことについて学ぶミニセミナー。現在親やパートナーの介護をしている人もこれからの人も仕組みをかしこく使って介護の悩みを解消！

〈日時〉8月9日(火) 19時～20時

〈内容〉「在宅介護、使えるサービスは何？」

〈場所〉コミュニティスペースあみーご
(半田市花園町6-25-1)

〈参加費〉500円

〈申込問合せ〉(N)ぱれっと 戸田 ☎090-4235-7269
<https://coubic.com/palette8010>

■あかり 20周年記念イベント 「ドーンと元気に、これからも」

(N)あかりの20周年を記念して「笑わずには帰れない！」サーカスと講演会を開催。ぜひお越しください！

〈日時〉9月4日(日) 13時半～15時45分(開場13時)

〈内容〉第1部 コメディクラウンサーカス
第2部 講演会「笑いの力
～ホスピタルクラウンの現場から～」

講師：大棟耕介氏

((N)日本ホスピタル・クラウン協会 理事長)

〈場所〉常滑市民文化会館ホール

〈料金〉大人1500円 小学生以下700円
席不要の3歳児以下 無料

〈問合せ〉(N)あかり ☎0569-35-4185

■あなたの持っている資格を 絆で活かしませんか？

土曜日、日曜日に障がい者の外出支援をするヘルパーを募集しています。短時間(1～2時間)から長時間(8時間)の活動まで、内容も様々です。ぜひご協力ください。

〈問合せ〉(N)絆 ☎0562-83-7563

■なつやすみ 星槎名古屋中学校 レストラン

ご予約お待ちいたしております！

〈日時〉8月2日(火)～3日(水)11時半～14時

〈場所〉知多市市民活動センター Ada-coda

〈担当〉竹内ゆ

■子ども若者支援者のためのABC

〈日時〉8月16日(火)・17日(水) 13時～17時

〈会場〉知多市青少年会館

〈受講料〉2,000円(1日参加の場合：1,000円)

〈内容〉16日：講義「発達障がいの基本的知識」

山口久美氏

17日：講義「スクールソーシャルワーカーの立場から地域で子ども若者を育てる」野尻紀恵氏
映画「みんなの学校」上映

〈担当〉海老原

NPO現場見学バスツアー



7月21日(木)9時半～16時
詳細は同封チラシをご覧ください。

第143弾 空き家対策と農福連携

〈日時〉2017年2月21日(火)

〈定員〉26名 〈参加費〉5,200円
(担当：江端)



特定非営利活動法人

地域福祉サポートちた

478-0047 知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743